

お名前	性別	卒業年	小学校	現住所
ふか せ 深瀬 しまこ 島子	女性	昭38年 (1963)	八名小 清水野教場	岡崎市

「学校への道」

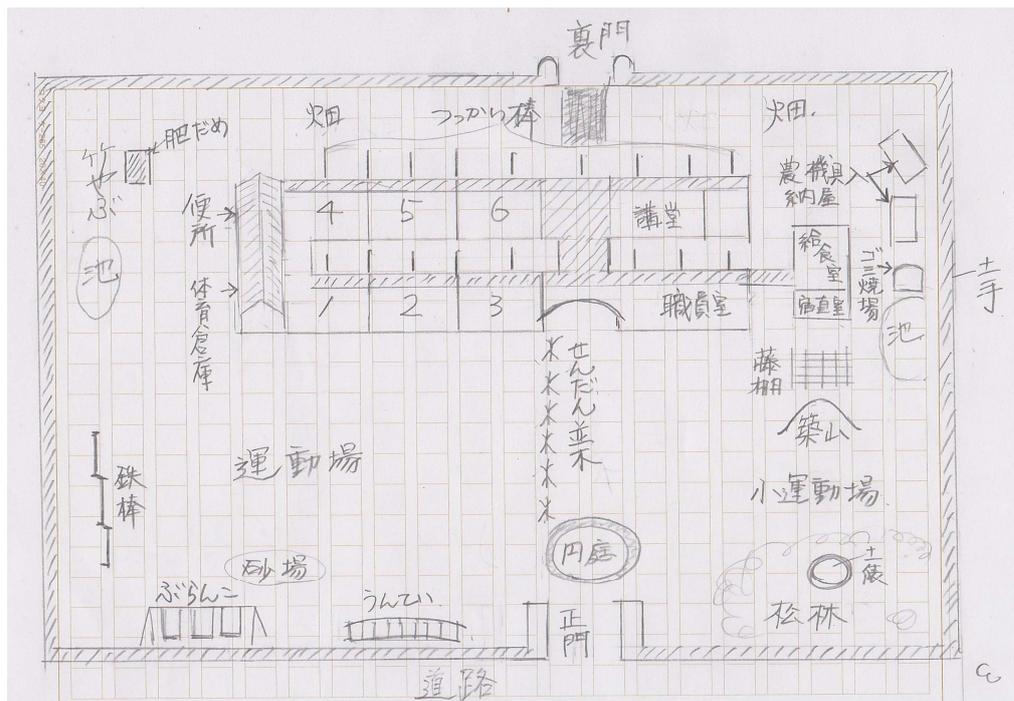
私の家は一畝田^{ひとくわだ}で、昭和31年度から36年度まで清水野小学校へ通っていました。学校へ通うのに歩いて1kmくらい登り坂、下り坂、登り坂の舗装してない地道^{ほそう}を歩きました。天気の良い日はバスが通るとすごいほこり煙^{けむり}です。雨が降ると穴の掘れた水たまりにバスが通ると、バッシュと、とばしり^{かき}がかかるので傘を横にして体を傘に隠してよけていました。バスの他は、牛を飼っていた農家があったので牛車が通っていました。道には牛ふんが湯気を出していました。そして、やっと正門前にバス停のある学校に着きます。今から思うと、とても風景の素敵な学校でした。正門を入ると、すぐ前に円庭の中にいろいろな植木の園があり、そこから校舎の玄関までセンダンの並木で、校舎は前後2棟、校庭は広くセンダンの並木の右側には松林で、その中に土俵^{どひょう}があり、次に小校庭があり、その横にドウダンツツジのきれいな築山^{つきやま}（山に見せて土、砂、石などを使って造った小山）、その後ろに藤棚です。左側には雲梯^{うんてい}、砂場、ブランコ、鉄棒、校庭でした。そして、こんな歌があつてよく歌いました。

♪ 清水野小学校 よい学校 裏から見たらつかい棒 ♪

この歌の通り、校舎2棟の後ろ側は長い丸太が何本か斜めに支えています。先輩から聞いた話ですが、この歌は富岡小学校の子がうらやましくて作ったんだ

よと聞きました。本当かどうかは知りませんが、私もよく歌っていました。

右は、当時の清水野小学校の見取り図です。がんばって思い出しました。



「心に残るできごと」

入学してすぐ（昭和31年）の給食の時に、みそ汁しるの中に入れていた白いブヨブヨの油を口の中に入れました。それが肉だとは知らなかったです。家でも肉を食べたことはありませんでした。その白いブヨブヨの肉が食べられずにいました。一人でも食べれない人がいると、「ごちそうさま」が言えなかったのです。私は、口の中に入れてままで食べたことにして、「ごちそうさま」を言ってすぐ中庭に出て、木の根っこに肉を口から出して隠しました。それから肉がきらいで、今でも肉は食べていません。

小学校5年生頃ごろ（昭和35年）、男の先生が黒い革かわのスリッパのかかどが1cmくらいあって、木の床をカッチカッチと歩いていました。女の子が勉強の時、何かまちがえた時、先生が怒おこって黒い革のスリッパで顔をビンタしました。その時、女の子の口から歯が出てきました。ちょうどグラグラの抜ける歯ぬだったと思います。こわいより抜けた歯でみんな笑っていたと思います。

小学校5、6年生（昭和35、36年）頃ごろ、給食の後の掃除そうじで、便所のくみ取り（大小便をためたかめから取り出す）をして、それを竹やぶにある肥だめ（大小便をまとめて入れておく穴うつ）に移していました。そして、大使用の便所は、四角の板の真ん中が長方形に切り抜いてあるだけで、手を置く場所がなく、こわかったです。そこの切り抜きに男の子が落ちて、〇〇〇まみれになって、その後は先生がどうやってきれいにしてあげたのか分かりませんが、男の子の家が学校から近かったので帰りました。

「地域行事や遊び」

私の小学生の頃はテレビがなく、学校から帰ると、今日は誰だれの家にテレビを見に行ってくると言って、その家にはみんな集まって見せてもらっていました。夜は家中でテレビのある2、3軒けんの家を交代で見させてもらいに行きました。子どもたちが見た番組は、

風小僧こぞう（山城新吾やましろしんご）、白馬童子さんどがさ（山城新吾ふじた）、てなもんや三度笠ふじた（藤田まこと、白木みのる）、とんま天狗てんぐ（大村昆おほむらこん）、琴姫七変化ことひめ（松山容子しょうこ）、怪傑ハリマオかいけつ（勝木敏之かつきとし）、少年ジェットしょうねん（北村健きたむらけん）、まぼろし探偵たけし（加藤弘かとうひろ）、月光仮面げつこうめん（大瀬康一おおせこういち）などで、女の子でも月光仮面のまねをして、首に風呂敷ふろしきを巻いて大きな石の上に登り、そこから飛び降りていました。夜、家族で見せてもらったのはプロレスでした。力道山、ブラッシーが出ていて、ブラッシーはかみつくので、かみつかれたレスラーから血ちが出ていると解説かいせつがあってもテレビが白黒なので血は黒くしか見えなくて、こわくありませんでした。学校でも何の時間か分かりませんが、4年生（昭和34年）の時に見せてくれました。その時に見たテレビは、「少年ケニア」でした。今でも見たいくらい大好きでした。

それから子ども会があって、前にある吉祥山きちじょうに登り、シダやガンピ（和紙の原料）を採りに行き、それをしばって大きい子（5，6年生）が売りに行って、クリスマスの時に小さなケーキを買ってくれました。夜には拍子木を持って、「火の用心！マッチ1本火事のもと！」「サンマ焼いても家焼くな！」と部落をまわりました。

子ども会は、全部子どもたちだけでやりました。



3年生の遠足で登った吉祥山

「夏休みのうはんき 農繁期き」

今ではプールがあって当たり前ですが、小学生の頃、夏休みには豊川の渡船場とよがわ とせんという所に親の当番制せい かんしの監視の下で泳ぎに行っていました。川には“ここまで”の目印で長い竹を浮かべているだけで浮き輪もありませんでした。その時には何も考えていませんでしたが、監視の親が泳げたのかどうかも知りませんでした。そして、あの頃何かあった時、緊急きんきゆうの対策たいさくはどうしていたんだろう？近くに民家もなし、兩岸は竹やぶと土手で何もありませんでした。でも、事故じこもなく楽しい思い出です。

私たち子どもの家は、ほとんど農家だったので、6月頃の田植えと秋の稲刈りいねかの頃には、日曜日以外に忙しい家の手伝いをするために休みがありました。本当に何を手伝ったのか、後から作文を書かされました。